

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム潮風ひだか 【ユニット名:しらなみ】		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	平成29年3月15日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の中で四季折々の風景を味わえる環境に立地しております。入居者様が日々の生活の中で役割や趣味の活動が多く取り入れられるよう心がけています。また、重度化していく中で介護職員、看護職員との連携により異常の早期発見や看取り介護への対応が出来るよう実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=3092100043-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成29年4月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールに利用者が活けた花を飾り、車椅子を使用している利用者も部屋にプランターを置き、花を植えて水やりをする、日めくりをめくる、食事の片付けを行うなど、本人ができる役割を大切にしている。また駐車場でオープンカフェを開いたり定期的にドライブを実施するなど、四季を感じることができる取り組みが見られる。医療面の充実を図り、重度化により車椅子の利用が増えてきても対応できるよう、法人開設のクリニックの医師、看護師と連携を密にとり、安心して生活できるように支援している。また終末期における職員の不安などを解消するための医師による職員への指導も行なわれている。職員は常にユニット会議の中で、その人らしい生活ができるように話し合い、個人を大切にするための支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に「今日も明日も笑い合おう。なじみの暮らしをいつまでも」という理念を作り、その理念を共有し日々のケアに取り組んでいます。	理念のあり方について、具体的にどう取り組めばいいのか模索している。ユニット会議で検討を重ねながら、利用者の趣味、生活歴を把握し自分らしく生活できるよう支援している。	職員全員が理念に基づいた目標を明確に把握でき、理念を具体化できるような取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流の際、互いに行き来させて頂いたり、入居者様の知人や友達等も気軽に訪問されています。	七夕、敬老会、ひな祭りのイベントを毎年行い、地域の保育園児が訪問し保育園児と交流できる場ともなっている。利用者の友人の訪問も日常的にみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各職員が近隣住民の方々の介護相談や認知症に関する相談ができるよう職員教育に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にてサービス内容の報告をし、参加者の意見や要望を聞きサービスに反映できるよう努めています。また、参加者の相談等も気軽に言い合えるよう関係作りをしています。	各市町村の担当者はもちろん、近隣の住民、老人会や婦人会の代表、家族も参加して、グループホーム内の状況の理解や、安全・安心を確保できる取り組みなどを話し合い、サービス向上に努めている。	利用者本人の参加を検討すると共にグループホーム内の利用者の状況をより一層理解した話し合いが持てることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各市町村の担当者に入居者様に関する相談や、事業所に関する相談等を行い、関係を築いています。	常に各市町村と連携を取り、運営、申請、入居者の状態など、様々の事柄について相談し、担当者との信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修にて職員全体が理解を深められるよう努めています。また、身体拘束になり得る声掛け等に注意し、不適切な事があれば職員同士で注意し合えるよう努めています。	マニュアルを作成して、身体拘束が行われないよう、定期的に内部研修を行っている。玄関の施錠はしないで、帰宅願望のある人には一緒に職員が同行するなどして、不安にならないように支援している。	研修内容を記録検討するなど、全職員に周知できるよう取り組み、職員同士が確認し合い、より理解を深めることができることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止も職場内研修で行い、虐待の早期発見や見過ごすことのないよう様子観察をしています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:しらなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で研修を行い、制度の理解が深まるよう努めています。また、制度が必要な場合は関係機関と連携し、スムーズに活用できるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の説明の際、入居者様や家族様の不明な点や不安に思う事を尋ね、納得がいくまで説明するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からのコミュニケーションの中で家族様の意見や要望を聞けるよう努めています。得た情報は職員間で共有できるよう申し送りノートを作成し、サービスや運営に反映しています。	敬老会、誕生日会、普段の訪問時に家族からの意見が出やすい環境となるよう努めている。遠方で訪問が難しい家族には電話や写真を添付したメールでのやり取りで情報収集を行い、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議内や日々の業務の中で意見や要望を聞き、必要に応じて検討会を行い運営に反映できるよう努めています。	職員からは様々な意見が出され、会議の中で議論されている。言いにくい意見など事前に意見を書面にして提出し、些細な意見も吸い上げて運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力や経験に応じて各職員に役割分担をし、基本業務以外でも向上心が持てるよう報告や相談を密にとっています。また、努力に応じた評価も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講時に勤務調整を行ったり、実践者研修やリーダー研修、介護職員初任者研修等の資格取得に際して金銭援助を行い、知識や技術の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方に現状の課題点や不明な点を相談させて頂き意見交換を行っています。また、本社の理学療法士に効果的なリハビリの助言を得てケアに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込用紙を確認後本人様の面談を行い、不安なことや要望を把握できるよう努め、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用するにあたって不安な事や要望を聞き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際して本人様及び家族様のニーズを見極めるようアセスメントを行い、適切なサービスが実施できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごすということを大切に、日々のケアを通じて多くの事を学ばせて頂き、支え合う気持ちで接するよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会等の行事に家族様を招待し、一緒に過ごす時間を取り入れたり、生活の中で協力を得ながら本人様を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や近隣の方が面会に来られる事も多く、来られた際にはゆっくりと過ごして頂けるよう配慮しています。また、入居前から行きつけだった場所等にも出かけるようにしています。	毎月ドライブの予定を立て、入居者の馴染みの場所を一緒に考えて、訪れている。家族の協力を得て、友人宅の訪問も行っている。友人の訪問時は一緒にゆっくりくつろげるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持ちやすいよう職員が仲介に入り、同じ空間、時間を共有できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人様又は家族様との関係性が継続できるよう、相談を受けたり来所された際にはゆっくり過ぎて頂けるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や要望を汲み取れるよう、会話の中でのふとした言葉を記録し職員間で共有しています。必要に応じてユニット会議で話し合うようにしています。	日々の関わりの中での状態の変化をユニット会議で取り上げて職員間で共有している。家族からも訪問時や電話で聞き取って記録し、会議の中でも活用して支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人様や家族様、ケアマネジャー等の関係のあった方々から聞き、生活に反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味や嗜好、有する能力に応じた役割や楽しみが継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様又は家族様の意向や意見を聞き計画書に反映し、状態や状況の変化に対応できるようケアカンファレンス内で検討しています。	計画の変更、見直しは半年に一回実施し、状況把握や状態の変化に対しては申し送りノートなどに記載して会議で取り上げ、職員間で共有するとともに計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基に申し送り事項を職員間で共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様と自宅や行きたい場所へ出かけられたり、病院受診援助も行っています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:しらなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルの方々にボランティアにお越し頂き、残存能力の活用や楽しみが持てるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様が希望される医師に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しています。	主治医、かかりつけ医は、利用者、家族の希望に沿って選択されている。ホームの協力医による往診は2週間に一度行われている。専門医の受診については家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報交換を密に行い、主治医や関係機関と連携し健康管理、緊急時の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、定期的に面会に行き医療スタッフや相談員と情報交換を行い、連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の指針や事業所での対応方法を説明したうえで同意を得ています。終末期対応時は主治医や看護師、家族様と密に連絡を取り、必要に応じて家族様が泊まれるようにしています。	契約時にターミナルケアについて説明を行い、終末期に入ると主治医、看護師、家族、職員間で看取りについて話し合い、支援方法の検討を行っている。主治医、看護師も24時間対応で、職員も安心して支援することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力を得て、AED、心肺蘇生法の応急手当を学ぶ機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を定期的に行い、近隣住民の方に災害時における協力体制は築けているが、想定した訓練は実施できていない。また、南海トラフ地震を想定した水害時の訓練も検討中である。	火災時の避難訓練を定期的に行い、近隣住民の方に災害時における協力体制は築けているが、想定した訓練は実施できていない。また、南海トラフ地震を想定した水害時の訓練も検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重した声掛けや対応を行い、不適切な対応等があればその都度注意し合うよう努めています。また、家族様了解の基、呼び慣れた名前で呼ばせて頂くこともあります。	一人ひとりを尊重した関わりができるように努めている。プライバシーや羞恥心にも配慮し、トイレ誘導は本人の耳元で声掛けをするなど、利用者に寄り添った支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で洗濯や調理、掃除等入居者様がしたいこと、出来る事を多く取り入れています。食事や入浴に関しても本人様の希望に沿えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、本人様の趣味や嗜好をサービスに組み込めるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方には化粧の支援をしたり男性の方には髭の手入れをしたり等、本人様の望む身だしなみが出来るよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を献立に取り入れ、盛り付けや片付け等、入居者様の出来ることが役割の一つとなるよう支援しています。	献立の本を見て「こんなもの食べたいよ」という声を聞き、献立や調理に取り入れるよう心がけている。テーブル拭きや、食器の後片付けなど、役割をもってその人ができることを主体的にできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材や旬なものを用いた献立を作成し栄養バランスが偏らないよう努めています。水分や食事量を毎回チェックし、水分が少ない方にはその都度補給して頂くよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。個々に応じてケアの方法を検討し実施しています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:しらなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄能力をアセスメントし、排泄パターンに応じて誘導を行い自立した排泄支援を行えるよう努めています。	排泄パターンを把握し、日中は、トイレでの排泄を促している。夜間はおむつを使用する人もいるが、自立している人には寝る前にトイレにいけるよう声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を取り入れなるべく自立した排便ができるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を定める事なく入浴支援をし、希望される時間帯に合わせて実施しています。	日中の好きな時間に入浴できるよう支援している。拒否が強い人に対しても無理に強いることなく、時間を変えたり、人を変えたり、様々な工夫で入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意思や状態に応じて日中に休息して頂いたり、夜間眠られない方にはゆっくり会話をしたりお茶を勧める等、落ち着いて過ごして頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが理解し管理に努めています。薬剤に関して相談事があれば薬剤師や主治医に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や調理、生け花や裁縫等、思い思いの時間を過ごせるよう努めています。また、主治医や家族様の了解を得てお酒やおやつ等も楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり定期的にドライブや喫茶店へ出かけています。また、季節ごとに花見や紅葉等で季節感を感じて頂けるよう支援しています。	近隣のお店へ外食に出かけている。お店の協力を得て、おやつを持ち込むなど、重度の利用者も参加できるよう工夫している。外出を希望している人に対しては個別に職員が同行している。	

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:しらなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様了解の基、少額のお金を本人様が所持管理し、困難な方は金庫にて預かり管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室の温度、湿度を快適に過ごしやすい環境になるよう注意しています。また季節に合わせた飾り付けや写真を貼ることで楽しみの一つとなるように支援し、個人的なものはなるべく居室に飾るよう努めています。	ホールには季節の活け花が飾られている。ソファや畳のスペースがあり、四季の花々のプランターが置かれて、利用者の目を楽しませている。廊下には行事に参加した利用者の写真が写真展のように飾られている。	利用者がより一層安心できる環境で過ごすことができるよう、落ち着いた生活空間を確保できることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を把握し、席の配置を考慮しています。また、必要に応じてテーブルやイスの配置を変え、快適な居場所になるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で落ち着いて過ごせるよう使い慣れた家具や愛着のある物を持参して頂いています。	家族の写真や、家具の配置などその人の馴染みの物が置かれていて、個性が感じられる居室になっている。日々安心して過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で移動や入浴、排泄等を入居者様の残存機能が十分活用できるよう配慮しながら支援しています。		